

政策の方向性

Policy

0 町の仕事師として、地域で暮らす皆様ならではの声、お困りの声を区に届けます【身近な問題】

身近な問題にしっかり取り組むこと、それが住民に一番身近な政治家である区議会議員の大切な仕事です。また、徹底した無駄削減と正確でわかりやすい情報提供を心掛けます。

- ・皆様からの各種要望・相談にしっかり向き合います。

1 安全だけでなく、安心できるかを重視します【防災・防犯】

災害に強いまちづくりは喫緊の課題です。私が政治活動を行っている地域、特に根岸・下谷の一部にとっては何よりも優先すべき課題です。また住宅街であることから、防犯対策も重要です。

- ・地域防災計画上の地震被害想定死者数をさらに減らします。リスク水準は区民が決定できるようにします。そのために、「自助から共助、共助から公助」を基本にし、防災避難訓練、要支援者見守り活動、家具固定運動、不燃化、道幅拡充、住宅建替促進など、地域防災力向上に資する方向にある政策をさらに推進します。災害時、緊急時において、万全な対応体制を築きます。
- ・一時集会所の見直し又は「一時集合」概念の徹底をします。また、地域で一時集会所になり、憩いの場・集いの場にもなる空間を段階的に整備します。
- ・刑法犯をさらに減らすべく、内容確認の方法に配慮しつつ防犯カメラ設置を促進します。
- ・登下校時の見回り活動、安全対策をさらに進めます。
- ・AEDを24時間いつでも使える場所に設置します。
- ・区の情報メールの掲載内容を拡充し、さらなる安心をもたらします。

2 人づくりを重視し、一人ひとりを強く、豊かにします【学校教育、社会教育】

成長するには、一人ひとりの努力が必要です。その頑張りを「制度」で支えてまいります。学んでよかった、住んでよかったと思える台東区にします。

- ・考える力、創造力、応用力等すべての基本となる基礎学力を全国平均から脱却させます。大学生等、ボランティアによる学習支援も拡充します。日本語を書く機会を増やします。
- ・台東区から世界で活躍できる人材を生み出すため、文法や読む力だけではなく本物の英語力、自らの意見も言え相手の価値観も敬うことのできる議論する力の基礎を養います。
- ・道徳などの心の教育、体験学習、特別支援教育、幼児教育への支援を充実させます。
- ・近隣住民に配慮しつつ、放課後から夜間の学校活用をさらに進めます。
- ・青少年、高齢者、障害者を含む区民が、クラブ・サークル活動、ボランティア活動、生涯学習講座、シルバー人材等に、さらに積極的に社会参加できる環境を整えます。人数制限は出来る限り撤廃します。誰もが出番と居場所のある社会の実現を目指します。
- ・障害者スポーツやニュースポーツの推進を図ります。不自由な体であっても、体力がなくても、気軽にできるよう考慮されたスポーツを推進し、運動する人を増やします。
- ・社会教育の核となる図書館のあり方を見直しします。

※台東区にふさわしく、課題解決型の図書館へ指定管理者制度等の公共経営の視点の導入は成功だと思えます。接客はとても気持ちが良いです。区民館等でも本の貸出返却ができ、新しい谷中コミュニティセンターにも図書館機能が付与されました。区内全域で図書館の恩恵を受けられるようになり、場所的公平性も担保されています。しかし、政策は振り子です。今度は、それらのマイナス面を補い、本来の図書館機能を強化する政策が必要です。

- ・中央図書館へ知の集約を図る方向にある政策を行います。各図書館間で機能や役割の分担を行います。
- ・「仕事と暮らし」にさらに役立つ図書館にします。個人事業、小規模企業、地場産業、商店街等のビジネスを、わかりやすく整理した形で資料を通して支援します。
- ・特に、郷土資料室における台東区関係のレファレンス機能を強化します。区関係資料の収集・保存強化、「台東区の図書館員」の再育成を行います。
- ・都や隣接区の図書館、学校図書館、企業図書館との連携強化をします。
- ・購入図書は「負担と利益の原則」に基づき、区民が広く望む一般図書を中心に揃えるとともに、大学・研究機関の図書館と連携し、区民の専門図書へのアクセスを確保します。
- ・オンラインサービスを拡充します。
- ・パソコン等で作業できる場所を増やします。インターネットが使える環境をさらに整備します。
- ・雑誌を楽しむ、漠然と関心ある分野の教養を深める等、癒しの場としての機能も充実させます。本来の目的で図書館を利用する方のみが利用できる閲覧席を増やします。

3 住み慣れた地域・自宅で、人生の最期まで自分らしく、健康に暮らせる台東区を創ります【医療・介護・福祉・健康】

この分野は「区ができること」が大きく増えます。①「施設から地域・自宅へ」の方針の下、仮に家族の支えがなくても在宅で暮らせる環境を整備すること、②寿命と健康寿命の差を縮めること、がポイントです。

- ・かかりつけ医制度を推進します。都とも連携し、病院・診療所の役割・機能分化を進め、かかりつけ医との連携を強化します。在宅医療（訪問診療）の体制もさらに整備します。
- ・看護と介護を充実させ、生活を支えます。特に、「家族に負担をかけたくない」「在宅での医療・介護を望む」大多数の方のニーズに応えるため、医療と介護をつなぐ役割を持つ訪問看護の推進と充実をはかります。在宅介護（訪問介護）の体制もさらに整備します。
- ・日常の療養支援、急変時の対応、退院支援、看取りと切れ目のない体制を築きます。さらに、医療、介護、福祉、住まいを一体化させ、地域ケアの充実に取り組みます。配食や見守りなどの生活支援も推進します。一人暮らしや高齢者のみの世帯も増えている中、各種事業者との協定をさらに進め、最新機器の導入や個人情報等の壁を打破し、孤独死を防止します。
- ・予防の視点を重視します。生活習慣病対策（運動促進、食生活改善、禁煙促進、アルコール対策等）、がんを中心とした健診・検診、各種保健指導を促進します。認知症予防、転倒防止対策も進めます。各種任意予防接種の助成について検討をします。予防とともに、ジェネリック医薬品の利用促進等で医療費・社会保障費削減にも努めます。「持続可能な社会保障」を意識します。
- ・健康寿命に着目し、延伸を図ります。
- ・利用可能な制度情報をさらに整理・集約し、ご提示します。

4 「働く」を応援し、地域経済を活性化します【経済・産業】

労働市場で強い個人と企業を創ります。労働法の補完を図り、労働環境のさらなる向上のため、区でも積極的に働きかけをします。労働と社会保障を一体的に捉え政策を進めます。

- ・「働く」ことが最大の社会保障であると捉え、若者・高齢者・障害者・女性を含む、働ける人、働きたい人の就労支援を区でも行います。誰もが意欲と能力に応じて働くことができる社会の実現を目指します。保護の視点だけではなく、キャリア教育、能力開発支援など、労働市場で強い人材づくりを区でも行います。
- ・いわゆる「ブラック企業・ブラックバイト」は少ないながらも存在するという認識を出発点にし、区でも労働者の支援を行います。労働法の周知を図ります。国・都が行っている「就職活動・求人・採用に関する相談に限定されない労働相談」で蓄積された情報を国・都と連携し、活用します。
- ・特に資金調達支援を行い、起業・創業を積極的に促します。労働市場で強く生きようとする経営者のチャレンジを応援します。
- ・頑張る中小企業（個人事業、小規模企業）、商店街を応援します。経営課題の相談体制をさらに整備するとともに、資金の融資・斡旋制度のさらなる充実を図ります。その際、労使双方にプラスになり、皆が幸せに働くことができるよう、労働環境の向上についても働きかけをします。
- ・地域経済を支える地場産業、社会基盤を造る建設関連産業も守り、育てます。契約的手法の積極的活用という観点から、独自の「公契約条例」を制定します。
- ・国や都による各種支援策をさらに整理して提示します。
- ・「働き方を変える」方向性にある政策を積極的に進めます。

5 コンパクトシティの視点でまちづくりを進めます【まちづくり、観光】

土地が狭い台東区のまちづくりは多くの困難が伴います。①徹底した長期計画（年月の経過とともに、突然、個別事業がこうした計画の上位に来るようなことがよくあります）、②「地域」を意識したまちづくり（日常生活圏・学区区を意識、地域ごとの役割分担や施設の選択と集中、それら地域間のネットワーク化）、③紛争を増加している土地の高度利用をどうするか、がポイントだと考えます。台東区にとって重要な観光政策は、住民にも恩恵が及ぶこと（少なくとも不利益が及ばないこと）が出発点だと考えます。

- ・歩行者と自転車とが安心して通行できる道路にします。特に、都道の言問通りや区道の根岸・東日暮里の境道など、南部の主要道路に比べ、整備が遅れている生活道路に重点を置きます。意味のない凸凹道もなくします。高齢者・障害者・車椅子利用者にも優しいまちづくりをさらに進めます。
- ・区の特徴・利点を生かし、自転車と大きく動き回れるまちづくりを行います。買い物などで短時間利用できる区管駐輪場のさらなる設置を目指しつつ、スーパーなどの事業者にも、十分な駐輪スペースの設置を働きかけます。余剰駐輪場の転用促進や駐輪場の余剰分を外部開放する仕組みも拡充します。台東区における「放置自転車」の概念について、自転車をもっと活用する観点から整理をする一方、やはり悪質な「放置自転車」に対してはしっかりと対策を講じます。鶯谷駅、入谷駅、三ノ輪駅周辺や駅に近い学校・公園の周辺がこれにあたります。住民用の自転車置き場が十分でないマンション等にも周辺に迷惑が掛からないよう、しっかり働きかけを行います。
- ・超小型モビリティに関する調査・研究を進めます。
- ・交通事情での地域の分断を防ぎます。入谷交差点、下谷3丁目交差点、鶯谷駅前交差点、根岸小前交差点等の歩行者・自転車のネットワーク向上を目指します。
- ・旧東京北部小包集中局跡地、旧坂本小、根岸5丁目用地は防災拠点としての機能を確保することを条件に活用します。
- ・子供たちが事実上使えない鶯谷公園や玉姫公園等の活用方法の見直しを行います。地域の目が届く安全な遊び場、ボール遊びができる環境をさらに整備します。
- ・魅力ある空間の創出をします。都と連携し、無柱化を重点道路以外でも進めます。隅田川、不忍池の水辺空間や上野の森文化空間をさらに整備します。水道、トイレ、ベンチ等、ウォーキングやランニング環境の整備を図ります。
- ・条例を実際に運用し、空き家対策をさらに進めます。
- ・警察と協力し、繁華街におけるタクシーの2重駐車を解消させ、交通秩序を維持します。
- ・道路上に出ている看板類を既存の規則の範囲内で取り締まります。
- ・ごみのごみを呼ぶのを防ぐため、さらなるまちの美化を図ります。ごみ、たばこ、唾・痰などのポイ捨て禁止条例に罰則を整備します。清掃隊などのボランティア清掃を支援、拡充します。公共トイレも清掃頻度を増やします。
- ・台東区に少ない緑は防災・防犯政策、その他の政策を妨げない範囲で増やします。
- ・屋外喫煙所の分煙対策を進めます。
- ・ハード面や観光人材の育成等、観光客の受け入れ体制の整備を引き続き行います。案内板は4か国語表示を改め、2か国語、ピクトグラムなど簡素でわかりやすい形式に改めます。最新技術も活用します。日本語をそのままローマ字化した表示も改めます。
- ・リピーター獲得や区内全域にわたる観光動線のネットワーク化には、従来型の観光の他、「ソフトやコンテンツ面、心地よさ、おもてなし等」が大事であり、地域固有の資源を活用した体験型・交流型の観光が重要です。台東区にはそれに対応できる魅力ある観光資源が既に多く存在することから、こうしたニューツーリズムにも目を向けます。魅力発信型の観光活性化も行います。
- ・浅草に常設映画館やボウリング場など、学生同士や家族で集まれる施設の復活、誘致を目指します。
- ・災害時における観光客への万全な対応体制を築きます。